

平成 28・29 年度 長崎県教育委員会・雲仙市教育委員会指定研究

「特別の教科 道徳」の実施に向けて

研究主題

豊かな関わりを通して自己を見つめ、

よりよく生きようとする児童の育成

～考え、深め合う道徳の時間の工夫と関わりを大切にしたい体験活動を通して～

かんがえることを大切に

わたしと

ともだちを大切に

こんきよくを大切に



平成 29 年 11 月 10 日
雲仙市立川床小学校

I 研究の概要

1 研究の全体計画

関係法規
学習指導要領
県・市教育方針
時代や社会の要請
保護者地域の願い
教師の願い

学校教育目標
自ら学び、心豊かでたくましく生きる子どもの育成
めざす児童像
○進んで学ぶ子ども ○助け合う子ども ○やりぬく子ども

児童の実態
<よさ>
・素直
・異学年交流が活発
・動植物愛護
<課題>
・根気強さ
・自己表現
・言葉遣い

道徳教育重点目標
①自分で考え判断し、節度ある行動をすることができる子ども (かんがえることを大切に)
②誰に対しても思いやりの心を持ち、助け合う子ども (わたしとともだちを大切に)
③生命あるすべてのものを尊重し、大切にすること (こんきよくを大切に)
④目標に向かって根気強く努力する子ども

各学年の重点目標				
	内容項目	低学年	中学年	高学年
①	A 善悪の判断 自律、自由と責任	よいことと悪いことを区別し、よいと思うことを進んで行うこと。	正しいと判断したことは、自信をもって行うこと。	自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること。
②	B 友情、信頼	友達と仲よくし、助け合うこと。	友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。	友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら人間関係を築いていくこと。
③	D 生命の尊さ	生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。	生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。	生命が多く、生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。
④	A 希望と勇気 努力と強い意志	自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。	自分でやろうと決めた目標に向かって強い意志を持ち、粘り強くやり抜くこと。	より高い目標を立て、希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。



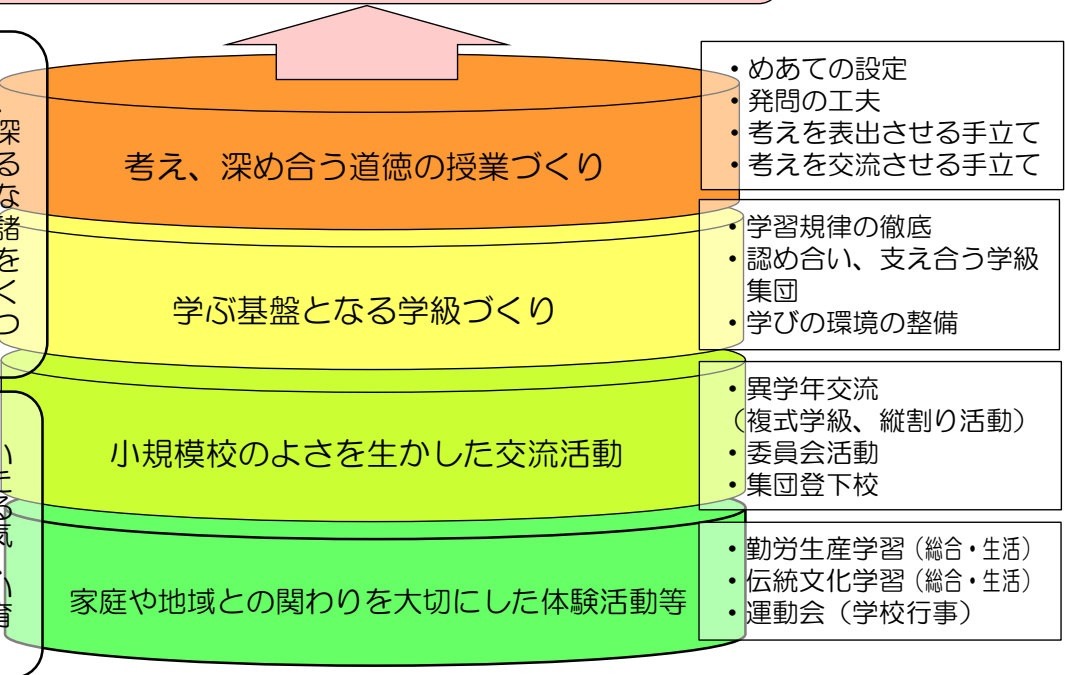
【研究主題】
豊かな関わりを通して自己を見つめ、よりよく生きようとする児童の育成
～考え、深め合う道徳の時間の工夫と関わりを大切にしたい体験活動を通して～

2 研究構想図

考え、判断し、他者とよりよく関わって生きる子ども

仮説①
道徳の時間において、考えを引き出す発問や深め合う活動の工夫をすることで、多面的・多角的な思考が促され、道徳的諸価値の理解を基に自己を見つめ、問題をよりよく解決できる子どもが育つであろう。

仮説②
教育活動全体において、関わりを大切にしたい体験活動の充実を図ることで、互いのよさに気づき、互いに高め合い、共によりよく生きていこうとする子どもが育つであろう。



3 研究の内容

研究仮説①

道徳の時間において、考えを引き出す発問や深め合う活動の工夫をすることで、多面的・多角的な思考が促され、道徳的諸価値の理解を基に自己を見つめ、問題をよりよく解決できる子どもが育つであろう。

考え、深め合う道徳の授業づくり

めあての設定： 問いをもつ ①（ア）

ねらいとする道徳的価値に関わるアンケートを提示することで、意識と行動とのずれに気付かせ課題意識をもたせる。

発問の工夫： 主体的に考える ①（イ）

児童が自分との関わりで考える発問や多様な考えが引き出されるような発問をすることでねらいとする価値についての考えを深めさせる。

考えを表出させる手立て：

考えを伝える ①（ウ）

自分の考えを相手に伝えるため、発達段階に応じた手立てを工夫することで、異なる考えにふれさせることができる。

考えを交流させる手立て：

学び合い、考えを深める ①（エ）

ペア・グループ・全体での話し合いや動作化・役割演技を取り入れ、考えを交流させる。複式学級では異学年が隣になるよう座席を配置し、発達段階による考えの違いにふれさせることで、自分の考えを広げたり深めたりさせることができる。

学ぶ基盤となる学級づくり

学習規律の徹底

話型や聴型を具体的に指導することで聞く力や表現力が身に付き、落ち着いて学習に取り組む態度を育てることができる。

認め合い、支え合う学級集団

よさを認め合う場を設けることで、信頼関係が深まり、考えを安心して交流させることのできる支持的風土が築かれる。

学びの環境の整備

校内の環境を見直し改善することで児童に安心感や所属感をもたせ、道徳的諸価値を意識した生活をさせることができる。

研究仮説②

教育活動全体において、関わりを大切にした体験活動の充実を図ることで、互いのよさに気づき、互いに高め合い、共によりよく生きていこうとする子どもが育つであろう。

小規模校のよさを生かした交流活動

異学年交流

複式学級における活動や縦割り活動をすることで、お互いのよさを知り、相手を思いやることの大切さや力を合わせてやり遂げることの大切さを学ばせることができる。

委員会活動

3年生以上の児童は委員会活動に取り組んでいる。この活動を通して自分の役割に対する責任感や互いのよさを認め合う望ましい人間関係を育てることができる。

集団登下校

集団登下校を行うことで、高学年としての責任感や相手を思いやることの大切さを学ばせることができ、それぞれの規範意識の高まりにつながっている。

家庭や地域との関わりを大切にした体験活動等

勤労生産学習（総合・生活）

米や野菜を栽培することを通して、自分たちが自然と関わり合って生活していると感じ、自然愛護や生命尊重の心を育てることができる。

伝統文化学習（総合・生活）

地域の人と関わりながら地域に伝わる風づくりと風揚げをすることを通して、ふるさとに愛着をもち、伝統を受け継ごうとする心を育てることができる。

運動会（学校行事）

家庭や地域と関わりをもつことで地域の人々の温かさを直に感じ、自分が周りの人に支えられて生活していることや地域のよさに気付くことができる。

Ⅱ 研究の実際

1 考え、深め合う道徳の授業

1年生 主題名：困っている友達に B【友情、信頼】
 資料名：「くりのみ」（出典：「みんなのどうとく」学研）
 ねらい：うさぎときつねの行為を比較し、きつねが涙を流した理由を考えさせることで、友達の気持ちを考え、仲よく助け合っていこうとする心情を育てる。

過程	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点	評価等	
導入	1 アンケート結果から友達についての自分たちの認識と学習課題をもつ。	○「アンケート結果を見て、気付くことはありませんか。」 ・友達と仲よくしている。 ・けんかしていやな気持ちになったこともある。	・アンケートを提示し、友達との関わり方に課題があることに気付かせる。	アンケート結果	
展開	ともだちとなかよくするために、たいせつなことをかんがえよう。		めあての設定①(ア)		
	2 本時のめあてをとらえ、資料を読む。	考えを表出させる手立て①(ウ)	・きつねとうさぎは友達で、お腹がすいていることをおさえてから資料を読む。		
	3 きつねとうさぎの心情を比較する。	○「きつねとうさぎの心の色は同じでしょうか。」 ○「きつねは、どうしてどんぐりを隠して嘘をついたのでしょうか。」 ○「うさぎは、やっと見つけた栗の実を、どうしてきつねに渡したのでしょうか。」	・ハートカードを貼りながら色を選んだ理由を発表することで、互いの考えの違いに気付かせ、意見が深まるようにする。 ・きつねの行動を動作化させ、きつねの気持ちにより近づける。		
	4 きつねが涙を流した理由を考える。	◎「なぜ、きつねは栗の実を握りしめ、涙をこぼしたのでしょうか。」 発問の工夫①(イ)	考えを交流させる手立て①(エ)	・涙を流した理由をワークシートに書かせる。時間を確保し書けない児童には個別に関わる。 ・考えを全体で交流させ、「きつねの心は変わったのか」と問い返すことで、うさぎの優しさにふれてきつねの心が動いたことに気付くように促す。	
	5 きつねのその後の行動を考える。	○「きつねがもし今度、どんぐりを見つけたら、どうすると思いますか。」 発問の工夫①(イ)	考えを交流させる手立て①(エ)	・役割演技をさせ、互いに助け合うことができる友達関係をつくろうとする気持ちを高めさせる。	評価
	6 自己を振り返る。			・アンケートに立ち返り、自己を振り返る視点を与え、ワークシートに書かせる。	
終末	7 教師の説話を聞き、本時をまとめる。	○「友達と仲よくするためには、どうすればよいでしょうか。」	・「ありがとうの木」の内容を紹介することで、友達の良さに気付き、これからも助け合っていこうとする気持ちを高める。		

評価 友達のよさを感じ、仲よく助け合っていこうとする気持ちが高まったか。(ワークシート・観察)

めあての設定 ① (ア)

本時でねらう道徳的価値に関するアンケートを事前に取り、その結果から自分たちの意識と行動のずれに気付かせ、授業の導入で提示することで課題意識をもたせるようにする。

それをもとに本時のめあてを設定し、児童が自分の生活と関連付けて学習に取り組めるようにする。

ともだち	はい	いいえ	ともだちだから、
• なかよく	6人	0人	• あそぶ
• たすけた	6人	0人	• いっしょにべんきょう
• もっとなかよく	6人	0人	• いっしょにすこす
• たすけてもらった	5人	1人	• てつどう
• りんかした	4人	2人	• やする
			• かす
			• たいせつ
			• やさしく
			• なかよく
			• (も)

発問の工夫 ① (イ)

指導のねらいを明確にして、資料分析を行い、多面的・多角的に考えさせる発問や自己を見つめる発問を工夫する。

○導入での発問例

「～についてどう思うか。」

「みんなで話し合いたいことは何か。」

○展開での発問例

「～がそうしたのはなぜか。」

「～と～の考えにはどんな違いがあるのか。」

「～さんの考えに対してどう思うか。」

○終末での発問例

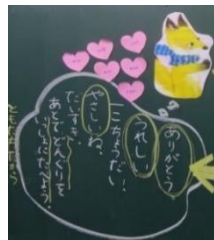
「一番考えたことは何か。」

「友達の考えの中で印象に残ったのは何か。」

考えを表出させる手立て ① (ウ)

○ハートカード

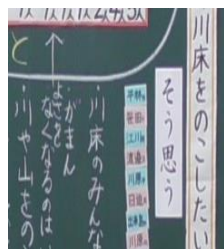
特に低学年で、登場人物の心をカードの色で考えさせ、選んだ理由も話すことで、考えをより明確にさせる。



○ネームプレート

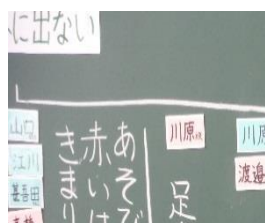
(例1)

発問に対する2つ程度の選択肢を提示し、自分がどう考えるか、ネームプレートを活用して明確にさせる。



(例2)

「する」「しない」など立場を示す言葉を「心のものさし」の両端に提示し、自分の考えは直線上のどのあたりの位置か、ネームプレートを貼って明確にさせる。



考えを交流させる手立て ① (エ)

道徳的価値の自覚を深めるため、話し合いの形態を工夫する。

○ペアでの話し合い

自分の考えをもって、相手の考えを聞くことで自分の考えとの違いを明確にすることができる。なお、複式学級では、意図的に異学年でのペアにするようにしている。

○グループでの話し合い

友達の考えにふれる機会が多くなる。自分と複数の友達の考えとを比較することで、より深く自覚することができる。

○学級全体での話し合い

道徳的価値に対して自分の考えを表す機会は少なくなるものの、多様な考えに多くふれるとともに、自覚を深めることができる。



4 心を育てる道徳的環境づくり

児童が心豊かに生活するために大きな役割をもつ学校内の環境を見直し、児童が安心して所属感をもって生活できるようにしている。

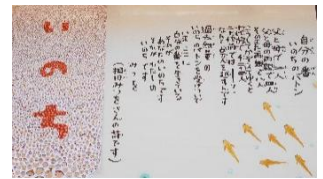
【友達のをさを認め合う学級づくり】

学級ごとに、自分や友達の頑張りやよい行動などを紹介し合っている。



【校門横掲示板】

掲示板の月ごとのテーマを内容項目から決め、掲示している。



(6月・生命の尊さ)

【心を育てる掲示（道徳コーナー）】

道徳的諸価値への意識の継続を図るために、板書や児童の感想などを掲示し、授業で学習したことを振り返ることができるようにしている。



5 小規模校のをさを生かした交流活動・関わりを大切にした体験活動等

異学年の友達や地域の人達とのふれあいを通して、互いのよさを認め合い思いやりの心を育てたり、協調性を養ったりするために、様々な体験活動を行っている。

【異学年交流】

複式学級においては、学習や諸活動を通して異学年交流を図っている。また、共遊の時間や学校行事では高学年が中心となり縦割りで活動することで集団の一員であることを自覚し、思いやりの心や協力する大切さに気付くことができている。



【集団登下校】

班長を中心として、地区ごとに毎日実施している。集合時刻や場所等も自分たちで相談して決めており、それぞれが役割を自覚し、協力して行動する力が付いてきている。異学年児童が交流することで、つながりをより深めることができる意義ある取組である。



【勤労生産学習】

保護者や地域の方の協力を受けて、米やサツマイモを育てている。この学習を通して児童は、自然の素晴らしさや地域のをさに気付き、自分たちがたくさんの人に支えられていることを実感することができる。

一連の学習のまとめとして、11月には保護者や地域の方を招待し、収穫祭を行っている。餅や焼き芋を作りもてなすことや日頃お世話になっている人に感謝の気持ちを伝え、収穫の喜びを分かち合うことが、地域を愛する心を育むことにつながっている。



Ⅲ 成果と課題

1 成果

- 発問や板書の工夫による児童の主体的な学びの向上
- 考えを交流させる場の設定による多面的・多角的な思考の広がり
- 互いに認め合う場の設定による支持的風土の醸成
- 自ら学ぶ意欲の高まりによる学力の向上

Q-U アンケート

○クラスの中に仲のよい友達がありますか。

	H28年2月	H29年2月	H29年7月
肯定的回答	93.3%	93.4%	97.1%
否定的回答	6.6%	6.6%	2.8%

学校生活への意欲と学級への満足度を知るため、Q-Uを行っている。

いじめや不登校などの問題行動の予防と対策にも活用でき、児童が安心して学べる学級経営につながっている。

全国学力・学習状況調査 【児童質問紙】

○話し合う時、友達の考えを受け止めて自分の考えをもつことができますか。

	H28	H29
肯定的回答	83%	100%
否定的回答	17%	0%

○学校のきまりを守っていますか。

	H28	H29
肯定的回答	67%	100%
否定的回答	33%	0%

○人が困っているときは進んで助けていますか。

	H28	H29
肯定的回答	67%	100%
否定的回答	33%	0%

○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

	H28	H29
肯定的回答	100%	100%
否定的回答	0%	0%

2 課題

- 道徳性の成長の様子の適切な見取りと評価
- 道徳的価値の理解を深めるための話し合い活動の充実
- 児童に育むべき資質や課題の家庭や地域との共有化

研究同人

平成28年度

校長	本田 恭子	養護教諭	森崎 美穂
教頭	中田 稔昭	事務職員	小鉢 貴子
教諭	大島 哲也	複式支援	宮崎 彩
	村木 美香	用務員	宮本 孝子
	野口 智宏		松尾 修一
	草野 千泰		

平成29年度

校長	本田 恭子	講師	中村 りか
教頭	中田 稔昭	養護教諭	森崎 美穂
教諭	村木 美香	事務職員	小鉢 貴子
	竹田 真二	複式支援	前田 彩花
	野口 智宏	用務員	宮本 孝子
	草野 千泰		栗原ひろみ